

単元案の概要

テーマ
多様な生活背景をもつ人々に、社交的に自己紹介する
目標
学習レベル 3 自分や自分の出身地の特徴（地理・気候・特産……）、現在の趣味・関心（サークル・アルバイト……）等を、全国各地から来ている学生と海外からの留学生を含むクラスで「感じよく」紹介することができる。
コミュニケーション能力指標
自分 3-a. 自分や身近な人の特徴（得意/不得意なこと、長所/短所/性格など）について、口頭で紹介し合うことができる。 自分 3-b. 好きなこと/もの/人について、その理由を含めて紹介することができる。 自分 3-d. 人性設計について紹介することができる。 自分 3-g. 将来の夢/希望/計画について紹介することができる。 趣味 3-b. 趣味や習い事（頻度/始めたきっかけ/自分にとっての意味等）について説明できる。 地域社会と世界 3-c. 自分の出身地(A)と現在居住している地域(B)の、暮らしや生活について紹介しあうことができる。
学習シナリオ
場面状況 Z 大学に、交換留学生がやってきた。そこで、一人ずつ日本語で自己紹介することにした。 活動の流れ - 過去にあった「感じよい」「感じわるい」自己紹介を例示し、「感じいい」「感じわるい」という主観的な感覚がどういう場合に生じるのかを分析する（その日までの事前学習）。 - 上の学習活動を通して、注意事項を整理し、将来に向けて有効利用する（就職活動でも使えそう）。
総括的評価
全体的に、自分の身近なごく狭い人間関係の中のみで生きていることがわかるような（外の世界に対する配慮のない）自己紹介は大幅に減点する。より広い視野に立ったうえで、留学生を含めたうえで「聞き手の存在を意識した話し方であったか」「自分とは異なる生活背景をもつ人が、理解でき、興味をもち、親近感を覚えるように話したか」を評価する。 - 聞き手に対する配慮あるアイコンタクトはとれたか。 - 聞き手が確実に聞き取れる発音/速度で話したか。 - 自分の出身地 A を知らない人への配慮がなされているか。A の地理上・交通上の位置関係や、気候・特産等に言及したか。 - 自分は A 出身であるが、(Z 大学所在地でもある) B 出身の人に不快感を与えることなく B に対する感想を紹介したか。 - A 出身の自分が話した B に対する感想は、A と B をよく知らない C, D, E……出身の人が理解でき、興味をもつきっかけとなったか。 - 自分の好きなことや取り組んでいる活動についての紹介が、聞き手に具体的なイメージをや理解をもたらしたか。

3 × 3 + 3 分析

	言語領域	文化領域	社会領域
わかる	A-1. 自己紹介に必要な語彙・表現がわかる。 A-2. 多様な人々が集まる公的な空間での自己紹介が、高校までの地元根ざしたクラス内での自己紹介とは性質が異なることがわかる。	D-1. 紹介で言及するさまざまな情報や事象を理解する。 D-2. 自分にとって既知の文化・生活様式と未知の文化・生活様式との異同に気づいたり、推測したりする。	G-1. グローバル社会の一員としての自覚をもち、グローバル社会の特徴や直面する課題を認識する。 G-2. グローバル社会で生きるために、初対面かつ異文化に邂逅する際の適応力としてのコミュニケーション・ストラテジーが必要であることを認識する。
できる	B-1. 身近な事柄や関心のある事柄について、事実や情報、自分の考えを、聞き手が受ける印象や気持ちを想定したうえで紹介できる。 B-2. 自分の生活様式を、他のものと比較したうえで客観視できる。 B-3. 自分の紹介内容が聞き手に伝わるように、さまざまな言語および非言語ストラテジーを使うことができる。	E-1. 自己の文化と他者の文化との異同を客観視することができる。 E-2. E-1 の背景等について、自分の考えを整理したかたちで表明することができる。 E-3. E-2 での分析をとおして、他者の文化を認め、自己の文化を客観的に再認識することができる。 E-4. 異文化間の相違から生じる誤解や緊張関係を調整したり、乗り越えたりすることができる。	H-2. 事実や状況を客観的に解釈・分析して、自分の感想をその根拠とともにわかりやすく表明することができる。
つながる	C-1. 聞き手に伝わっていないような表現を察知し、B-3 のストラテジーを駆使して、話し手・聞き手の双方が話題を共有できるような人間関係を、社交的に構築する。	F-1. 多様な生活背景をもつ人と主体的かつ積極的に関わり、多様性を尊重する人間関係を構築することができる。	
三連携	連携1：他者に配慮したうえで自分のオリジナリティをだす 連携2：地理・歴史・文化人類学・異文化間コミュニケーション 連携3：自己の趣味や活動への誘いかけ、他者からの関心への積極的関与		

テーマ：多様な生活背景をもつ人々に、社会的に自己紹介する

指示文 1：

自己紹介は、自分と周りの人との間に友好的な関係を構築するきっかけになります。このクラスには、留学生も含めて、様々な生活背景をもつ人が集まっていますので、人間の文化や生活様式にはいろいろあるということに配慮しながら、社会的に自己紹介をしてください。

指示文 2（過去の事例から注意点を整理する）：

これまでにあった、社会的でない、あるいは、感じよくない自己紹介例を挙げます。次の自己紹介（の一部）は、どの点に問題があると思いますか。どこの部分をどう直せばいいと思いますか。

これまでにあった、社会的な、あるいは、全体として感じいい自己紹介を挙げます。好感を覚えるのはどういう部分ですか。直した方がいい部分がありますか。

指示文 3（過去のアンケートから注意点を整理する）：

この課題には、いわゆる「コミュニケーション能力」が必要とされます。

そもそも、コミュニケーション能力とはどういうものだと思いますか。自分の考えを書いてください。

どういうことができるとコミュニケーション能力があると言えるか、どういうことができないとコミュニケーション能力がないと言われそうですか。

コミュニケーション能力があるとは：

コミュニケーション能力がないとは：

— 以下は、コミュニケーション能力についての学生への配布物 —
(省略)

評価ルーブリック

評価基準	目標以上に達成 (4点)	目標を達成 (3点)	目標達成まであと少し (2点)	目標達成まで努力が必要！ (1点)
発音 × 2	多様な生活背景をもつ人たちが、完全に容易かつ正確に聞き取れる発音である。	多様な生活背景をもつ人たちが、完全に正確に聞き取れる発音である。	多様な生活背景をもつ人たちが聞き取れる発音を心がけてはいるが、聞き取れない部分が1～2箇所ある。	多様な生活背景をもつ人たちが聞き取れない部分が3箇所以上ある。
語彙 × 2	一部の聞き手が理解しにくい語彙を、繰り返したり言い換えたりして、聞き手が理解できなかった語彙が全くないだけでなく、聞き手にとって未知の語が理解しやすく言及されていた。	一部の聞き手が理解しにくい語彙を、繰り返したり言い換えたりして、聞き手が理解できなかった語彙が全くない。	聞き手が理解できなかった語彙が1～2個ある。	聞き手が理解できなかった語彙が3個以上ある。
文法、表現 × 2	簡潔な SOV、OSV から構成される短い文を論理的につなぎ、文法成分の過度の省略や、略語・スラングがない。	簡潔な SOV、OSV から構成される短めの文をほぼ論理的につなぎ、文法成分の過度の省略や、略語・スラングがない。	文内部の文法関係がやや不明瞭で、文と文の関係もやや論理性を欠いており、文法成分の省略や、略語・スラングの使用が1～2箇所ある。	文内部の文法関係が不明瞭で、文と文の関係も論理性を欠いており、文法成分の省略や、略語・スラングの使用が3箇所以上ある。
話題の内容 × 3	話題が聞き手の興味を強くひき、言及内容には（聞き手がそれまで聞いたり見たり考えたりしたことがなかった等の意味での）情報提供が含まれているのに、聞き手は内容を完全に理解できた。	話題が聞き手の興味をひき、言及内容には（聞き手がそれまで聞いたり見たり考えたりしたことがなかった等の意味での）情報提供が含まれているのに、聞き手は内容をほぼ理解できた。	言及内容に、（聞き手がそれまで聞いたり見たり考えたりしたことがなかった等の意味での）情報提供が含まれていたが、聞き手は内容をあまり理解できなかった	言及内容に、（聞き手がそれまで聞いたり見たり考えたりしたことがなかった等の意味での）情報提供が含まれていないのに、聞き手は内容をあまり理解できなかった

話題の伝え方 × 1	プラス・イメージのある自己紹介で、話題の一部に嫌い/苦手/不本意な事柄を含んでいる場合も、聞き手に陰鬱な印象を与えることはなく、かえって聞き手は肯定的に理解できる。	全体としてはプラス・イメージのある自己紹介で、話題の一部に嫌い/苦手/不本意な事柄を含んでいる場合も、聞き手に陰鬱な印象を与えることはない。	全体として、ややマイナス・イメージのある自己紹介で、聞き手が面白い/楽しい等と感じる部分が一カ所もない。	全体として、マイナス・イメージしかない自己紹介で、聞き手が面白い/楽しい等と感じる部分が一カ所もなく、聞き手はかえって憂鬱な気分になる。
対人関係構築の 態度	聞き手への配慮：ずっと宙を見上げている、下を向いている等、聞き手とのアイコンタクトをとっていない（－1 0） 多様性への配慮：自分と異なる文化圏や生活様式を尊重する態度が欠けている、または、少数者が不快感を覚える（－1 0）			

目標の要素分解

個々のタスク	小目標	中目標	大目標
右の小目標を達成するための中国語表現について、単文形式で作文して提出する。 [形成的評価 1] 語彙、文文法の正確性を評価 【成果物】作文提出	出身地 A について、 地理的な位置や今の居住地 B との気候的な共通点・相違があればそれに言及し、感想等を加える。	紹介する内容： 自分とは異なる生活背景をもつ人に、疎外感や不快感を与えないような内容を紹介する	多様な生活背景をもつ人々に、社会的に自己紹介する。 (聞き手の中には、さまざまな生活背景をもつ人が含まれることを認識する)
右の小目標を達成するための中国語表現について、単文形式で作文して提出する。 [形成的評価 2] 語彙、文文法の正確性を評価 【成果物】作文提出	自分の趣味や関心について、聞き手が具体的なイメージをもち得るような例を出したり、エピソードを出したりする。		
右の小目標を達成するための中国語表現について、単文形式で作文して提出する。 [形成的評価 3] 語彙、文文法の正確性を評価 【成果物】作文提出	略語・流行り言葉・ローカルな情報に過度に依存する表現を使わない。もし使ったら、別の表現で言い換えたり、内容を説明したりする。		
右の小目標を達成するための中国語表現を話す。	聞き手の理解が容易になるように、話す発音・速度・間の取り方を工夫し実践する。	紹介する形式： 自分とは異なる生活背景をもつ人が、自分の自己紹介を容易にわかるように話す	

[形成的評価 4] 声調を含む声調の正確性を評価 【成果物】実践練習録音			
上の小目標・中目標を達成するための中国語表現を、談話形式で作文して提出する	[形成的評価 5] （主題化、“是…的”構文、ポーズの位置、聞き手の理解を助ける表現の使用等）談話文法を評価 【成果物】作文提出		
[形成的評価 5]についての教員からのフィードバックを理解し、訂正すべき箇所を訂正し、再提出する。	[形成的評価 6] （主題化、“是…的”構文、ポーズの位置、聞き手の理解を助ける表現の使用等）談話文法を評価 【成果物】作文提出		
[形成的評価 6]についての教員からのフィードバックを理解し、訂正すべき箇所を訂正し、再提出する。	[形成的評価 7] （主題化、“是…的”構文、ポーズの位置、聞き手の理解を助ける表現の使用等）談話文法を評価 【成果物】作文提出		[総括的評価] 【成果物】中国語での自己紹介
			[総括的評価] 【成果物】日本語での自己紹介

青色部分は、今回の冬課題とは直接関係ありません。日本語で自己紹介した後に、中国語でも挑戦するために表に組み込んだものです。
 本来なら、日本語を第一言語とする学生が外国人に話す日本語についての個々のタスクを記述すべきですが、これをどうするか考えが未だまとまっていません。「災害時のための外国人向け「やさしい日本語」」、その他の文献にはあたっていますが、今後の課題とさせていただきます。

個々のタスクと[形成的評価 1～7]は、

日本語で自己紹介した後に、中国語でほぼ同内容のものを言えるようにするための（言語依存的）タスクと評価。
 [形成的評価 1～4]は、中国語での語彙、文文法の正確性を評価するが、簡体字・ピンインの正確さも評価の範囲に入る。

[形成的評価 5 ～ 7]は、中国語の語彙・文文法の正確性を前提とする談話文法を評価する。

— 以下は、評価方法についての学生への配布物 —
(省略)